

【月案】 2月・3歳児

今月の保育のポイント

- 基本的生活の自立については、子ども個人で差がくっきりと出ている時期。そこを前提として、子ども個人の育ちを振り返りながら、これからの課題を明確化していく。
- 保育士や友達とイメージを共有し、認めながら遊ぶ楽しさを1年かけ経験から少しずつ分かってきた時期。人との関わりについての力を認め、子どもに共感することでその心地良さを子どもが経験し、他人にもできるように関わっていく。
- 子ども個人の力の育ち、人との関わりの育ちを認めた上で、進級への期待に目を向けていく。みんなでルールを決めてみたり、子どもの力を信じた働きかけをする。
- 身近な自然の気づきに共感し、霜の感触や凍った水などの不思議さを保育士自身が気づいて知らせる。

月のねらい

- 寒い中でも元気に身体を動かして遊ぶ。
- 自分の気持ちを言葉で表現し、相手の気持ちにも気付く。
- 身の回りのことを率先して自分でやろうとする。
- 行事に参加し、日本の風習に親しみを持つ。
- 一人ひとりの体調に留意しながら、健康に過ごせるようにする。
- 友達とイメージを共有して遊ぶことを楽しむ。
- 冬の自然を取り入れながら遊ぶ楽しさを味わう。
- 異年齢児と触れ合う中で進級することに期待を持つ。

週のねらい

その1

- 1週目：豆まきに参加し、日本の昔ながらの行事に関心を持つ（教育）
- 2週目：戸外でも寒さに負けず、思いっきり身体を動かして遊ぶ（教育）
- 3週目：保育者や友達と簡単なルールのある遊びを楽しむ（教育）
- 4週目：友達の気持ちに気づき、自分の気持ちと折り合いをつけようとする（教育）

その2

- 1週目：身の回りのことはほとんど自分でできるようになる（養護）
- 2週目：一人ひとりの健康管理に留意し、毎日を快適に過ごせるようにする（養護）
- 3週目：冬の自然事象に触れ、興味をもって遊ぶ（教育）
- 4週目：自分の気持ちや想像したことを表現しながら遊びを楽しむ（教育）

その3

- 1週目：顔色、食欲、咳や鼻水等の症状に留意し、健康に過ごせるようにする。（養護）
- 2週目：大体の生活の見通しがつき、身の回りのことを進んで行おうとする。（教育）
- 3週目：異年齢児と一緒に過ごしたり、触れ合うことを楽しむ。（教育）
- 4週目：滑り台、マット、巧技台、平均台等の運動遊具を使って体を動かすことを楽しむ。（教育）

その4

- 1週目：豆まきに参加し、自分の感情を言葉にして伝える。（教育）
- 2週目：絵本や紙芝居を通して手洗いうがいの大切さを知り、進んで行く。（養護）
- 3週目：お絵かきや粘土等でイメージした物を表現することを楽しむ。（教育）
- 4週目：ひな祭りの製作をする中で、行事に興味を持つ。（教育）

前月末の子どもの姿

養護（生活）

- 衣類の着脱が自分でできるようになってきている。
- 排泄が自立し、行きたい時には「トイレに行ってきます」など保育者に伝えられる子もいるが、言えなかったり間に合わずに失敗してしまう子もいる。
- スプーンやフォークの持ち方を覚え、正しく使えるようになってきている。食べこぼしも多いが、自分で食べる意欲がある子どもが多い。
- 気の合う友達が存在によって、安心して過ごす姿がある。仲の良い友達が欠席すると、不安そうにすることもある。
- 生活リズムが元に戻り、「次は○○だね」と保育者に確認しながら生活する姿が見られた。一方で、次に何をしたら良いか分からずにいる様子も見られていた。
- 正月の挨拶を積極的に使う様子が見られた。
- 水が冷たくなり、手洗いをしなかったり、早く切り上げてしまう様子が見られていた。
- 豆まきを楽しみにしている一方で「鬼怖い」と言葉にしている様子が見られていた。

教育（遊び）

- 友達との関わりが増え、気の合う友達と一緒に好きな遊びを楽しんでいる。簡単なお正月遊びに興味を持ち、繰り返し楽しむ子どももいる。
- お正月の歌や好きな曲を覚えて歌ったり踊ったりして表現することを楽しむ姿がある。
- 粘土などを使用し、見たことのあるものをイメージして形作って遊べるようになってきている。戸外遊びでは、年中・年長の子がやっている遊びを真似して、様々なものを使って遊ぼうとする姿も見られる。
- 「お店屋さんごっこ」や「おうちごっこ」等身近な生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ。やりたい役割が被り、言い合いになることがあった。
- 雪や氷に触れ、冷たさや柔らかさ等に気付き、言葉にしていた。
- 簡単なルールのある遊びを喜び、保育者や友達と遊ぶ。
- 運動遊具で体全体を使って遊ぶことを楽しんでいた。
- かるたや絵本の平仮名を見て、知っている文字を読む。

活動内容（五領域対応）／環境構成と援助

養護（生活）

- **活**：自分の気持ちを言葉で言い、相手に伝えようとする。また、相手の気持ちにも気付く。（言葉）
- **環**：自分の気持ちを相手に言葉で伝えようとするが、なかなか言葉にできない子どももいる。必要に応じて代弁しながら、相手に伝わるように援助する。

- **活：**食べこぼしなどに気づき、自分で拾ったり保育者に伝えたりし、周りを綺麗にしようとする。（健康）
環：食具の持ち方や姿勢などに気をつけて食事を進められる一方で、食べこぼしなどには気づかない子もいる。その都度声をかけ、ティッシュで拾うゴミ箱に捨てるなど対応の仕方を伝えていく。
- **活：**豆まきを通して日本の文化に興味を持つ。（環境）
環：「心の中にいる鬼を追い出すために豆をまく」節分の意味を分かりやすく伝えてから製作や行事に取り組むようにする。
- **活：**衣類の着脱だけでなく、鼻水が出たら気付き鼻をかむなどの身の回りのことも自分でやろうとする。（健康）
環：鼻水をかんだり肌着をズボンに入れるなど上手くできない子どももいるため、繰り返し一緒に行い、少しずつ自分でできるように援助する。
活：感染症の流行を知り、健康に気を付けて生活しようとし、手洗いうがいを自ら進んで行う。（健康）
環：保育者が手洗い、うがい等を実演し、毎日やってみせる。また、手洗い場が混雑しないように、ゆとりをもって行えるように分かれて行くなどの配慮を行う。
- **活：**交通マナー、ルールを守りながら安全に散歩に行く。（人間関係・環境）
環：歩道を歩くこと、友達と手をつなぐこと等、できるだけ声をかけず見守るようにし、子どもたちがどれほど自分たちで歩けるかを観察する。間が空きすぎる等の場合には中に入って援助を行う。
- **活：**自分と違う価値観や意見を経験し、他者との違いを知りながら、自分の困っていることや協力してほしいことを言葉で伝える。（人間関係・言葉）
環：喧嘩などのトラブルの時、子どもに寄り添いながらももう一方の考えを伝える。違いはあって良いことや、考えの違いから困った時、助けを求めたり、自分の意見を伝えようとすることを肯定する声掛けを行い、子どもが自分の気持ちを受け入れてもらおうと共に、どうしたかったかを子どもなりに考えられる時間をつくる。
- **活：**大体の生活の見通しを持ち、意欲的に取り組む。（健康）
環：1日の流れを絵で示しておいたり、朝の会等で知らせながら子どもが見通しを持ち意欲的に生活を送れるようにする。自分で気付いて行動出来た姿を褒め、喜びや自信に繋げる。
- **活：**異年齢児と触れ合い、優しくしたりされたりする経験を通して思いやりの気持ちが育つ。（人間関係）
環：「嬉しかった」「優しくできた」等の思いに共感したり「優しくしてくれてありがとう」と保育者が伝えることで気持ちの育ちに繋げる。又、異年齢児との関わりの中で進級することに期待を持てるようにする。
- **活：**寒い季節の中でも積極的に体を動かして遊ぶ。（健康）
環：保育者も一緒に体を動かし、白い息や冷たい空気、澄んだ空に気付けるような言葉かけをしながら戸外の気持ち良さを感じられるようにする。「体を動かすと温まるね」と体の変化に気付けるよう関わる。
- **活：**箸を使った遊びを楽しみ、箸を使って食事をすることに意欲が湧く。（健康）
環：箸で掴めた嬉しさに共感し、食事への意欲に繋げる。箸に興味がある時は、持ち方を丁寧に知らせ、遊びから生活に繋げていけるよう関わる。
- **活：**健康についての絵本や紙芝居を見て自分の健康と結び付けてみようとする。（健康）
環：分かりやすい絵や文の絵本を選ぶ。「皆の手にもバイキンがいるかもしれないね。丁寧に手を洗おうね」と言葉かけをしたり、自ら自分の健康と重ねる様子を大いに認めて、健康への関心に繋げる。
- **活：**「鬼は外」「福は内」という豆まきの言葉に興味を持ち、言葉にすることを楽しむ。（環境）
環：行事ならではの言葉を伝え、保育者が率先して言葉にしていけることで、知識、使ってみようとする意欲、使う楽しさに繋げる。

- **活：**信頼する保育者と気が合う友達と一緒に安定して過ごす。（健康・人間関係）
環：好きな友達と一緒に過ごす喜びに共感し安定して過ごせるようにする。友達が欠席し不安な気持ちに寄り添い保育者と一緒に過ごしたり、他の子と過ごす楽しさも味わえるように無理なく働きかける。

教育（遊び）

- **活：**ペンや粘土などを使って、イメージしたものを様々な方法で表現することを楽しむ。（表現）
環：子どものイメージしたものが表現できるように、「どんな形かな？」「丸と四角を作っているとどうかな？」などヒントとなるように援助し、表現できた喜びを感じられるようにする。
- **活：**保育者や気の合う友達と簡単なルールのある遊びを繰り返し行い、ルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。（人間関係）
環：ルールの説明時、子どもに見本になってもらうなどして分かりやすく伝える。子どもからどんなルールが難しかったかを聞き出し、全員で考えられるようにする。
- **活：**遊びを通して霜柱や凍った水などに気づき、興味を持つ。（環境）
環：氷に触れられるよう、バケツに水を張っておくなど準備しておく。
- **活：**異年齢児の遊びを真似したり一緒に遊んだりすることで、様々な遊びがあることに興味を持ち、やってみようとする。（人間関係）
環：異年齢児と遊ぶ機会を設け、一緒に遊べるような簡単なルールのある遊びを提案できるようにする。保育者も一緒になって遊び、子どもが遊びの楽しさを味わえるように必要に応じて援助していく。
- **活：**ダンス、劇遊び、リズム遊びなどを通して、身体で表現することを楽しむ。（表現）
環：劇遊びやダンスを行う際には子どもの好きなポーズややりたい踊りを取り入れ、表現する楽しさを味わえるようにする。
- **活：**簡単な集団遊びをルールを確認しながら楽しむ。（健康・人間関係）
環：ルールを説明する時は図を使ったり、子どもに実演してもらったりと、視覚に訴える分かりやすい説明を心がける。遊びが続かずトラブルに発展し続ける場合は、ルールを簡略化して遊びを継続できるようにする。
- **活：**クッキングを通し、作って食べる楽しさを知り、食への興味を深める。（健康・環境・表現）
環：トマトなど、簡単に切れるものを選び、安全に留意しながら進める。熱を加える前、火が通った後の野菜を味見することで、味や触感の変化に気付けるように工夫をする。
- **活：**おもちゃや遊具の貸し借りの経験を得ながら、自分の中の「貸したけど、まだ遊びたかった」などの相反する後から湧き上がってくる気持ちを経験する。（人間関係）
環：子どもの「本当は自分も使いたかった」気持ちにしっかり寄り添いながら、貸してあげたことで友達が喜んでいる事実を伝え、自分の行為は誰かを助けたことを実感できるようにする。また、貸してあげた後でも自分も貸してほしいと頼めることを伝え、子ども同士のやりとりを見守る。
- **活：**雪や氷、氷柱等の自然をごっこ遊びに取り入れることを楽しむ（環境・人間関係）
環：カップや皿、色水等を用意しておき、ごっこ遊びに発展するよう働きかける。子どもの発想を受け止め、自然を取り入れて遊ぶ楽しさを味わえるよう関わる。
- **活：**運動遊具で遊ぶ中で様々な体の動かし方を楽しむ。（健康・環境）
環：マットや巧技台、跳び箱等を用意し、転がる・渡る・のぼる・跳ぶ等の様々な動きを経験出来るようにしながらバランス感覚や挑戦する気持ちに繋げる。
- **活：**毛糸やお花紙・スタンプ等、様々な素材を使って製作することを楽しむ。（環境・表現）
環：「フワフワだね」「柔らかいね」等と素材の特徴に気付けるような言葉かけをしたり、子どもの気付きに共感しながら楽しく製作出来るように関わる。

- **活：**身近な生活体験を取り入れながらごっこ遊びをすることを楽しむ。（人間関係・表現）
環：「店員さんになってたんだね」等と笑顔で受け止め、なりきって遊ぶ楽しさや経験を取り入れる楽しさに共感する。役割を巡り言い合いになっている時は互いの気持ちを代弁し納得して遊び始められるよう関わる。
- **活：**ハサミや包丁等の使い方を知り、安全に楽しく活動する。（健康・環境）
環：保育者が安全な使い方と危険な使い方を示し理解に繋げる。保育者が必ず側につき、安全な環境の中で道具を使うことの楽しさを感じられるよう関わる。
- **活：**数を数えたり、文字を読んだりする中で数量や文字への関心や感覚が育つ。（環境）
環：数や文字に対する興味を受け止め、数を使った歌やゲームを取り入れたり、文字数の少ない絵本を取り入れたりしながら関心を深められるようにする。
- **活：**ルールのある遊びをする中で、「楽しい」「嬉しい」「悔しい」等の様々な思いを経験する。（人間関係）
環：嬉しさ悔しさ等それぞれの気持ちに寄り添う。子どもが自分の気持ちを落ち着かせたり、切り替えたり出来るような働きかけをしながら自制心を育む。
- **活：**折り紙や新聞紙等で作った物を遊びに使うことを楽しむ。（表現）
環：紙飛行機やバッグ、ネックレス、剣等様々な作り方を用意しておく。子どもが自分なりに考えた物も大いに認め、自分で作った物で遊ぶ楽しさを味わえるようにするとともに、創造力の育ちに繋げる。

健康、安全面で配慮すべき事項

- まだまだ室内と戸外の気温差が激しい時期である。汗をかいていたり震える様子などがないか、一人ひとりの状態によく目を向け、衣類の着脱などの声掛けを適宜行う。厚着すぎて動きにくい服装になっていないかにも注意する。
- 手洗いうがいが確立していない子どもも多いため、保育者自身が行う姿を見せたり一緒に行ったりすることで、子どもが自ら意識的に出来るようにしていく。
- 感染症が流行しやすい時期。体調の変化が見られた場合には迅速に対応し、保護者にも注意喚起を行うようにする。
- 寒さが厳しくなり、手袋やマフラー、帽子等を身に付けることが考えられるため、滑ったり、ひっかかったりしないよう確認する。
- クッキングで包丁を使用する際には、必ず保育者と一緒に落ち着いた環境の中で行う。
- 氷や屋根上の積雪を確認しておき、事故予防に努める。

今月の製作・歌・絵本・手遊び・室内室外遊び

製作

- 鬼のかざり製作／プレゼントキャンディ／しろくまの洋服製作

歌

- うぐいす／コンコンクシャンの うた／かぜさんだって

絵本

- おにはそと／ジオジオのかんむり／ゆきのひのうさこちゃん

手遊び

- 大きくなったら何になる／おにのパンツ／せんせいとおともだち

室内室外遊び

- 手つなぎ鬼／色鬼／氷で遊ぼう

行事

- 誕生日会
- 避難訓練
- 身体測定
- 節分（豆まき）（2月初旬）
- 建国記念日（2月11日）
- バレンタインデー（2月14日）
- 猫の日（2月22日）
- 天皇誕生日（2月23日）

食育

- 豆まきを通して日本の食文化に触れ、親しみを持つ。
- 食事の簡単なマナーや姿勢を覚え、気をつけようとする。
- 食べこぼしなどに気づき、自分で拾ったり保育者に伝えたりして周囲を綺麗にしようとする。
- 落ち着いて配膳をしたり、食器を片付けたりする。
- 友達と会話をしながら食事をするを楽しむ。
- スプーンを併用しながら、箸を使って食事をする喜びを感じる。

地域と家庭との連携

- 感染症が流行しやすい時期なので、発生状況を知らせるとともに手洗いうがいの感染予防の協力をお願いする。また子どもだけでなく、保護者の体調にも気を配りながら対応する。
- 冷え込む時期なので子どもが着脱しやすい上着の用意をお願いする。その際は子どもがケガをしないようにフードがついていないものを用意してもらう。
- 豆まきなど伝統行事を保護者や地域の人と楽しむ機会を作り交流を楽しむ。
- 出来るようになったことや頑張っていること等を保護者に伝え、成長を喜び合う。
- よく一緒に遊んでいる友達を伝え、安心感や保護者同士の交流に繋げる。
- 連携している医療機関と感染症についての情報を共有しておく。

自己評価

- 冬の自然現象に気付き、遊びの中で触れることができたか。
- 異年齢児と関わって遊び、新しい遊びやルールのある遊びを経験することができたか。
- イメージしたものを粘土で形作ったり絵で書き表すなど、表現することを楽しめたか。
- 保育者や友達に言葉で自分の思いを伝え、相手の気持ちも聞くことができたか。
- 豆まきに楽しく参加し、昔ながらの風習に親しみを持てたか。
- 冬の時期でも積極的に体を動かせるように関わったか。

- 子どもが見通しを持って生活出来るような環境を整えられたか。
- 身の回りのことに意欲的に取り組めていたか。
- 健康に過ごせるような環境を整えたり、子どもが自身の健康に興味を持てるような働きかけをしたか。
- 友達とイメージを共有しながら遊ぶ楽しさを味わえていたか。